

4月からヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン接種事業を再開

ヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチンを含むワクチンの同時接種後の死亡例が複数報告されたことを受け、接種を一時的に見合わせていましたが、平成23年3月24日に厚生労働省の専門家会議において、安全性上の懸念はないとの評価が出されたことを受け、4月1日から接種を再開することとなりました。

細菌性髄膜炎は乳幼児に多く、重症化しやすく重い後遺症を残すケースが少なくない病気です。この予防接種は主に細菌性髄膜炎を予防しますが、法的な接種義務はなく、保護者の希望により接種していただくものです。ご希望の方は接種前に必ず説明書を読み、接種医師から接種の効果、接種方法、副反応等について十分な説明を受け納得した上で接種してください。また、お子様の体調の悪い時は接種を控えてください。



接種料金／無料

接種期間／平成23年4月～平成24年3月末まで

必要物品／母子手帳・体温計・健康保険証（本人確認のため）

接種方法／広報かさい4月号と一緒に配布している「親と子の健康づくりカレンダー」をご確認の上、接種希望医療機関へ予約してください。

■ヒブワクチン接種

接種開始年齢	初回	追加
生後2か月以上～7か月未満	4～8週間間隔で3回接種	初回終了から約1年後1回接種
生後7か月以上～12か月未満	4～8週間間隔で2回接種	初回終了から約1年後1回接種
1歳以上～5歳未満	1回接種	

■小児用肺炎球菌ワクチン接種

接種開始年齢	初回	追加
生後2か月以上～7か月未満	27日以上間隔で3回接種	初回終了から60日以上あけ1回接種
生後7か月以上～12か月未満	27日以上間隔で2回接種	初回終了から60日以上あけ1歳以降に1回接種
1歳以上～2歳未満	60日以上間隔で2回接種	
2歳以上～5歳未満	1回接種	

【問合せ】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

ポリオ予防接種を受けましょう

ポリオ（急性灰白髄炎）はポリオウイルスによる感染症で、感染すると手足の運動麻痺による後遺症を残すことがある病気です。下記対象者は、ポリオ予防接種を受け予防に努めましょう。



対象年齢	生後3か月～90か月未満
接種回数	41日以上の間隔をあけて2回接種
接種日	5月16日（月） 九会・在田・西在田・多加野地区 5月19日（木） 富田・賀茂・下里・富合地区 5月30日（月） 北条地区 6月2日（木） 全地区 受付時間 13:00～13:45
接種場所	健康増進センター
接種料金	無料
必要物品	母子健康手帳・予診票（ペンで記入）・体温計

※接種者が1日に集中しないよう地区を分けていますが、子どもの体調に合わせて都合の良い日にお越しください。

※予防接種を受ける前に、必ず冊子「予防接種と子どもの健康」を読んで下さい。

【問合せ】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

■新型インフルエンザ（A/H1N1）は4月1日から、通常の季節性インフルエンザに変わりました

厚生労働省は今シーズンの流行状況を注視してきた結果、「新型インフルエンザ等感染症」と認められなくなったと公表しました。今後は通常のインフルエンザ対策に移行され、新型インフルエンザ（A/H1N1）ワクチン接種事業も平成23年3月31日をもって終了しました。

問合せ／国保健康課健康担当 ☎④ 8723

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

『東日本大震災』

■犠牲者への祈り

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、災害の巨大さが私達を圧倒します。本稿の締め切りの4月4日に於いて、日本全体への影響はおろか被災地の被害の大きさの全貌すら理解できない程です。失われた多くの命に哀悼の意を捧げますと共に、今も苦しみの中にいる被災者の皆さまの一日も早い生活の安定と地域の復興をお祈りいたします。

■被災者への支援

このような国を傾けるほどの大災害に対しては、全国民が結束して被災者への支援を行うと共に、自らの本来業務の遂行によって社会を支えなければならないと感じます。加西病院では職員からの義援金を供出すると共に日本病院協会、県医師会、医学学会を通じた支援を申し出ています。

私自身がそうなっているのですが、余りに悲惨な災害の状況や刻一刻と危機を募らせてゆく原子力発電所の報道を見ていますと、気持ちが落ち込み生活への意欲が失われてゆきます。いわゆるPTSD（心的外傷後症候群）に近い心の動きと思われる。しかしこれではなりません。私達が任務とする職業的使命を全うしなければ、被災地の復興に資することすらできません。

■被災地の医療

被災地では医療施設が損壊し津波に流されることにより、文字通り医療体制が崩壊しています。残存した病院に患者が押し寄せ、医療者は不眠不休の活動を強いられています。医療者は病状の悪い患者が目前にいるとつい頑張ってしまうところがあります。しかしそれが続けば燃え尽き症候群に陥り脱落します。

被災地の医療の欠乏の報道をみていますと、医療が人心の安定にどれほど必須のものか感じられます。被災した医療施設を復旧させ、医療者の疲弊を防ぎ、被

災地の医療が継続されるよう支援が必要なことを痛感します。

■医療体制への影響

今回の災禍は日本全体の医療体制、ひいては地域医療に深い傷を負わせると考えられます。すでに日本の医療もまた、持てる力と要求される医療提供の質や量との乖離によって災害状態に置かれていました。危機に瀕した地域医療体制の立て直しには資金投入が必要であり、特に疲弊の激しい病院医療への挺入れが始まった瞬間の出来事であったと言えます。

財源が限られるなかで、震災により生活と働く場を失った住民への補助、生産力の低下、原子力発電の問題などへの予算投入との間で軋みが生じます。しかしこの災害を日本全体が耐え、協力して立て直してゆくしか方法は無いと思います。私達病院職員の任務は医療現場にあります。日々の医療と明日への人材の育成が使命であり、震災が強い負の圧力を現場の力で克服し、地域の力を日本全体の力に帰還させなければならないと思います。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）



【写真】 新任看護師と臨床研修医の注射実習

病院勤務の看護師や医師が不足する中、加西病院には今年14名の看護師と7名の臨床研修医が赴任しました。明日を担う人材として、しっかりと育成していかなければならないと感じます。市民の皆さまも新人医療者に暖かい声援をお願いいたします。

■第8回市立加西病院ホスピタルフェア開催

日時／6月25日（土）9:00～12:00

今年のテーマは「来て！見て！感じて！加西病院」です。健康チェック、相談、制服着用体験、職場紹介など楽しいコーナーが盛り沢山。

こころの専門相談のお知らせ

不眠・イライラ・不安・ひきこもり・高齢者の悩みなどの「こころのケア」相談、「アルコール問題」相談を下記のとおり実施します。家族や関係者の方も相談できます。

相談内容	日程(すべて13:30から)	場所	相談員
アルコール問題相談	6月7日（火）	加東健康福祉事務所	精神保健福祉士（アルコール専門病院）
こころのケア相談	7月11日（月）		
		7月21日（木）	加西市健康福祉会館

【申込先】 加東健康福祉事務所地域保健課（〒673-1431加東市社字西柿1075-2） ☎0795-42-5111